



IR report

第73期 中間決算のご報告
2007年4月1日~2007年9月30日

Kyokuto Kaihatsu Kogyo Co.,Ltd.

この冊子に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

〒663-8545 兵庫県西宮市甲子園口6丁目1番45号

極東開発工業株式会社 経営企画部 法務広報課

TEL : 0798-66-1500

URL : <http://www.kyokuto.com/>

MAIL : kkkikaku@kyokuto.com



この冊子は、環境に配慮し、大豆油インキを使用しております。

極東開発工業株式会社

証券コード：7226

What's New 1

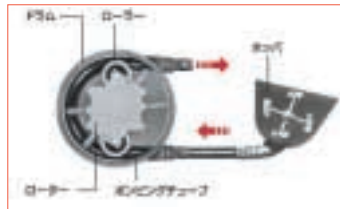
3.5トン車クラスのコンクリートポンプ車で最高性能
「新型スクイーズクリート」



スクイーズクリートは、円周ドラムの内周にセットしたポンピングチューブを、練り歯磨き粉チューブのようにローラーで絞り出して生コンクリートを圧送するタイプです。経済性に優れ、小規模な現場で重宝されています。

今回の新製品では、吸い込み性能や吐出量、耐久性でバランスが取れたポンピングチューブ径を採用し、3.5トン車クラスで最大の吐出量を実現。圧送性能が飛躍的に向上し、作業効率がアップしています。

また、ポンピングチューブに新しいゴム材質と補強ワイヤーを採用したほか、製造方法も新しく開発して寸法精度を向上させました。また、ポンピングチューブの耐摩擦性や捻れ耐久性の改善でランニングコストの低減を図っています。しかも、このクラスでは国内で初めてM型4段屈折ブームを搭載。打設現場での作業性を格段に向上させています。



スクイーズの仕組み

What's New 2

作業性を高めたほか、国内トップクラスの積込量を実現

「新型2トンごみ収集車」

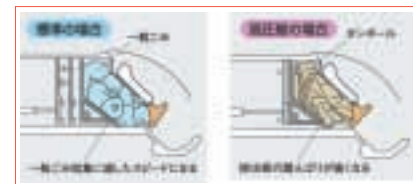
新型の2トンプレス式ごみ収集車（商品名：プレスバック）は、従来機種のボデー曲面に加え、テールゲートも丸みを帯びた曲面フォルムを採用。デザインのイメージを一新しました。大きな特長は、2トン車クラス最大のワイドな投入口。これにより、ごみの投入作業の飛躍的な効率アップを実現しました。また、排出時のテールゲートの開口角度を大きくすることで、ごみの排出作業もよりスムーズに行うことができます。

さらに、排出板自動後退機構の改良をはじめ、プレスプレートでごみを圧縮するためのインチング機構の改良、ボデーの設計変更によるボデー容量のアップなどにより、国内トップクラスの積込量を実現しています。

このほか、汚水や臭気を防ぐ対策や低騒音化の実現などによって、作業環境の改善や環境への配慮などを図っています。



幅1,440mmのワイドな投入口



排出板自動後退機構

高い技術力や海外拠点などを有効に活用し、付加価値の高い製品、サービスの追求に邁進していきます。

第73期中間期の実績をふまえて、現状での事業の取り組みと今後の見込みについて、田中社長に聞きました。

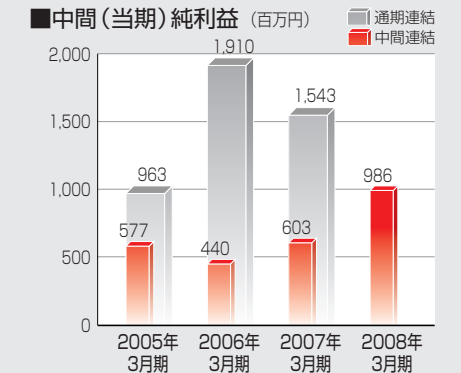
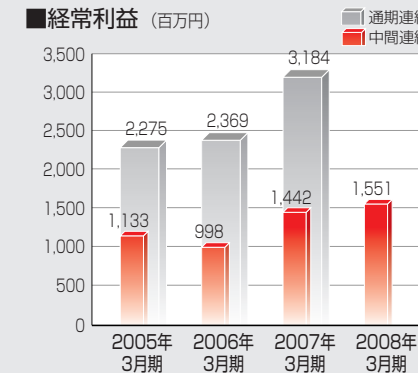
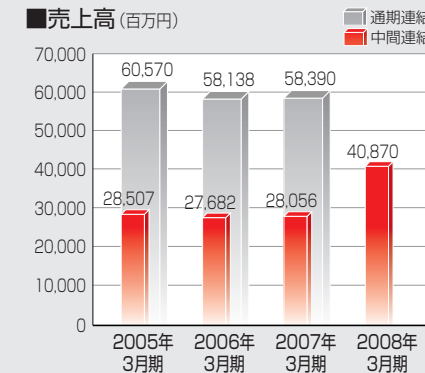


取締役社長 田中勝志

——当中間期の業績についてお聞かせ下さい。

田中 今期、当社グループは中期経営計画「Plan2007」（2007年4月～2010年3月）の初年度として、経営基盤の強化と企業価値の向上を図るため、各事業の積極的な展開を図り、業績の向上に努めました。なお、主力の特装車事業の一層の充実・強化を図るため、日本トレクス株式会社（以下、日本トレクス）の全株式を2007年4月1日付で住友軽金属工業株式会社より取得し、同社は当社の連結子会社となりました。

結果、当中間期の業績は前中間期に比べ、売上高は特装車事業の排気ガス規制による代替需要の一巡による国内売上の減少がありましたが、輸出や中国現地工場（昆山工場）の業績が順調に増加したこと、さらには新たに当社グループに加わった日本トレクスの売上を計上したこと等により、全体では12,813百万円（45.7%）増加して40,870百万円となりました。営業利益は、特装車事業、不動産賃貸等事業（立



駐車装置、コインパーキング)の増益効果がありましたが、環境事業における採算性の悪化により、5百万円(0.3%)増の1,595百万円にとどまりました。経常利益は、営業外収益として日本トレックスの株式取得による負ののれんの償却を計上したこと等により、109百万円(7.6%)増加して1,551百万円となりました。中間純利益は、税負担の軽減により383百万円(63.4%)増加して986百万円となりました。

——昨今の市場環境についてどのようにとらえていますか？

田中 まず主力の特装車事業ですが、排気ガス規制に伴う代替需要が一巡し、国内需要は落ち着く傾向にあります。国内普通トラック市場は前期・前々期は約10万台強で推移していたものが、今期は約8万台強で推移するものと予想されています。しかしながら、当社といたしましては、より高付加価値の製品を開発することで、新たなニーズの発掘に努めてまいりたいと考えています。また、新たに当社グループに加わった日本トレックスとの連携を図りながら、受注の確保に努めてまいります。

一方で、海外を見渡すと潜在的な需要がまだかなりあるととらえています。今後は中国昆山工場の業績の拡大と輸出の増加を図りながら、海外事業の拡大を重点的に進めてまいります。環境事業については、自治体の財政状況が厳しい上、メー

カー間の受注競争がますます激化していて、当社としても厳しい状況です。なお、パーキング事業については、コインパーキングの需要が伸びていてビジネスチャンスととらえています。

——主力である特装車事業の取り組みについて伺います。国内での取り組みを教えてください。

田中 国内需要は減少傾向にあるものの、今後の新たな排気ガス規制の強化や車輛の老朽化に伴う更新需要などを受注に着実に結び付けることで、売上の確保に努めてまいります。

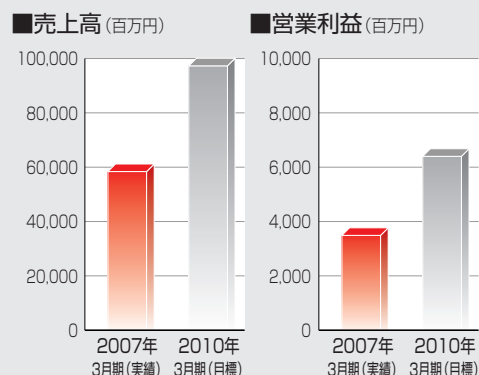
今後は当社が得意とする製品により一層注力し、また、今期より新たにグループ入りした日本トレックスとともに、特装車のトップメーカーとして展開を拡大していきたいと考えています。

当中間期には新製品として「新型2トンプレスバック」と「新型スクイズクリーンPH55-18」を発表いたしました。いずれも市場でご好評をいただいている当社主力製品のモデルチェンジであり、これらの新製品を中心として販売の強化に努めることで業績に寄与するものと考えています。

また、下半期においても、今回出展いたしました第40回東京モーターショー2007及び2007東京トラックショーでの展示製品をはじめとして、市場のニーズにマッチした新製品を積極的に投入してまいりますのでご期待下さい。

中期経営計画「Plan2007」

●経営目標	2007年3月期	2010年3月期(計画最終年度)		
	実績	目標数値	増減額	増減率(%)
売上高(百万円)	58,390	97,300	+38,910	+66.6
営業利益(百万円)	3,490	6,400	+2,910	+83.4
経常利益(百万円)	3,184	6,490	+3,306	+103.8
当期純利益(百万円)	1,543	3,910	+2,367	+153.4
R O A (%)	1.8	3.5	-	+1.7
R O E (%)	2.7	6.0	-	+3.3



——輸出及び海外での取り組みについてはいかがでしょう？

田中 輸出に関しては、中国での建設・開発ラッシュに象徴されるようにアジア圏の建設車輛の需要が急速に高まっていることから、今後も中国や東南アジアの市場開拓を進めていきます。また、国内自動車メーカーや商社などとの協力関係を強化して、アフリカ、ロシアなどの資源国を中心に拡販を図っていきます。

一方、中国・昆山工場は業績を伸ばしている、前期からはコンクリートポンプ車の生産も開始するなど順調に稼働しています。今後、生産車種をさらに増やすとともに、国内向け部品の調達体制なども整えていきたいと考えています。

——新規にグループ入りした「日本トレックス」について、今後の展開を教えてください。

田中 日本トレックスとのシナジーに関しては、新製品について、日本トレックスが得意とするトレーラーの技術と、当社が得意とする特装車の技術をそれぞれ最大限に活かした製品を作り出し、ラインナップを強化していく考えです。また、部品の共同調達や内製化を進め、コストダウンを図っていきます。

その他には、営業所・サービス拠点の統合や、当社のサービス網を利用したメンテナンス体制の強化などを進める中で、より一層の業務の効率化を図っていきます。

今後、日本トレックスとのシナジー効果や市場環境などを吟味し、M&Aや提携に関して新たに適切な事案があれば積極的に進めていきたいと考えています。

——中期経営計画「Plan2007」の進捗状況について教えてください。

田中 現在、経営基盤のさらなる強化と企業価値の向上のため、中核事業へ積極的に経営資源を投入することで、計画の最終年度である2010年3月期には売上高973億円を達成し、

業界No.1企業となることを目標として計画を遂行しています。

「Plan2007」の個別方針について述べますと、まずブランド価値の向上については、新たに当社グループに加わった日本トレックスとともに新製品・新技術の投入を積極的に図っています。グローバル展開については、製品の輸出を強化する一方、中国の現地工場である昆山工場を中心として海外展開をさらに進めてまいります。さらに、技術力の進化に関しては、特装車の総合メーカーとして培ってきた強みを最大限に活かして創造力豊かな製品を提案できるように技術部門の強化を行っています。

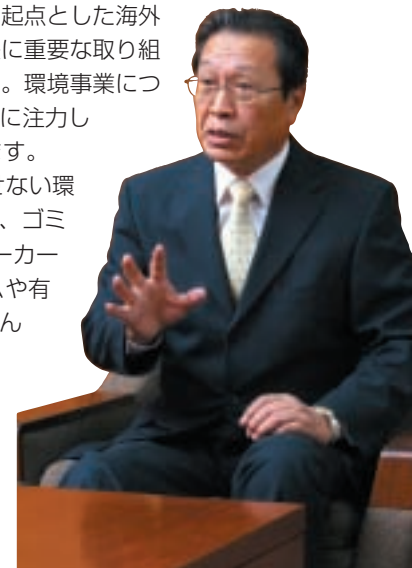
現時点での進捗状況については、国内のトラック需要の落ち込みが予想以上に大きかった点と、環境事業の採算性の悪化による業績の修正という要素はあったものの、業績挽回に向けてグループ一丸となって努力しているところです。

——当期末半期に向けての抱負について教えてください。

田中 当社を取り巻く経営環境は厳しいものがありますが、特装車事業では、技術を活かした新製品の投入や、中国の工場を起点とした海外市場での展開など、今後の成長に重要な取り組みが着実に成果を上げています。環境事業については、今後採算性のある案件に注力した受注の拡大を図ってまいります。

また、メーカーとして欠かせない環境問題についての責任も重視し、ゴミやCO2の排出、各トラックメーカーと共同で行っている六価クロムや有機溶剤の削減に継続して取り組んでまいります。

今後とも株主の皆様の一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。





開催概要

会期 2007年10月27日～11月11日
 会場 幕張メッセ（千葉県千葉市）
 主催 社団法人日本自動車工業会
 出展社数 241社
 来場者数 379,300名（10月24日～10月30日）
 ※10月24日～10月26日は特別公開日

出展製品



新型プレスバック（計量装置付スケールバックカー仕様）
 軽量設計によって架装物重量を約50kg削減。これによって、「少しでも多く積みたい」というニーズに応えています。また、業界トップクラスの計量精度を誇るロードセルを搭載したほか、オプション仕様として、携帯電話を利用したごみ収集データ管理システム「バックカーケータシステム」を採用しています。



新型フラトトップZero（一台積車両運搬車）
 新チルトフレームと新リフト機構の採用による「ゆるやか積載機能」で、より緩やかな傾斜角での車両積載が可能になりました。これまで以上に安心して積み下ろしができます。また、業界最速の1.5倍速で上げ下ろしが可能なアイドルアップ機能や、ラジコンのボタン一つでゲートの自動開閉ができるオートテールゲート機構を搭載しています。



大型強化リアダンプ
 ボデーに重作業現場で定評のある特殊鋼（ウェルハード400）を採用。普通鋼に比べて約3倍の強度があることから、耐衝撃性や耐摩耗性に優れ、ボデーの長寿命化を実現しています。また、丸底新形状ボデーの採用で、土砂の排出性を高め、現場での利便性を向上させています。

2007年10月27日から11月11日（当社の出展は10月27日～10月30日）まで、千葉市・幕張メッセで、「第40回東京モーターショー2007」が開催されました。テーマは「世界に、未来に、ニュースです。」で、今回のショーから、乗用車や商用車、二輪車、車体、部品、機械器具関連製品を含めた「新・総合ショー」として隔年で開催することとなりました。

当社は「近未来のデザインと先進の機能をトコトン追求!!」をテーマに掲げ、屋外展示場にて「大型強化リアダンプ」や「新型フラトトップZero」「新型プレスバック」を出展しました。これによって、国内外のお客様に当社製品を広く知っていただくことができました。中でも、2008年春に発売予定の「新型フラトトップZero」は、車両運搬車としてのメリットを数多くの関係者に知っていただく良い機会となりました。



2007年10月28日～30日の3日間、東京国際展示場「東京ビッグサイト」にて通算15回目となる「2007東京トラックショー」が開催されました。今回のテーマは「くるま集う秋。プロが集うビッグサイト。」です。展示されたのは、大型から小型、軽自動車までの各種商業車、及びトレーラ、特装车、特種車、バス等の商業車両など。開催中はトラックユーザーをはじめ、荷主、自動車メーカー関係者、関連部品・情報機器メーカー関係者などが多数見学に訪れました。

当社は、「力強く、より静かに、パワーゲートが生まれ変わります」をテーマに掲げ、「新型パワーゲートCG800TS」及び「新型パワーゲートGII 1000」を出展。会場を訪れた方々に対して製品の魅力を知っていただくことができました。



出展製品



新型床下格納式 パワーゲートCG800TS
 最大の特徴は、クラス国内最長1,160mm（当社比+130mm）のプラットホーム（荷物を乗せる部分）有効長。一度に大量の荷物の積み下ろしが可能になり、効率的な作業をサポートします。また、作業時における騒音の低減や、操作用ラジコンの性能アップなどにより、使いやすさを向上させています。



新型後部格納式 パワーゲートGII 1000
 ゲートを支える部品の見直しにより、プラットホームの剛性を向上。昇降時において抜群の安定性を実現しました。荷物の積み下ろしの際、揺れがほとんどないため、安全に作業が行えます。また、作業時における騒音の低減や、操作用ラジコンの性能アップなどにより、使いやすさを向上させています。



開催概要

会期 2007年10月28日～10月30日
 会場 東京ビッグサイト（東京都江東区）
 主催 株式会社日新出版
 出展社数 177社
 来場者数 96,386名（当社ブース来場者 1,402名）



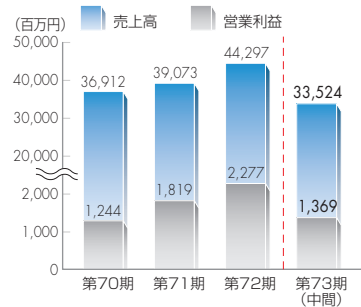
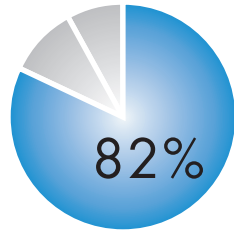
日本トレクスブースの様子

日本トレクスも出展しました。
 当期より新たに当社グループ入りした日本トレクスも同時に出品し、トレーラー、ウイングボディ等の製品を来場された方々に広く知っていただきました。

セグメント概況 (中間)

◆ 特装車事業

売上構成比

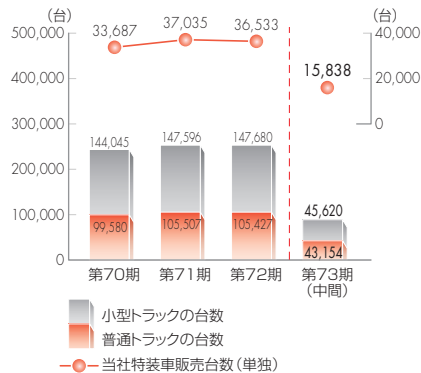


特装車事業につきましては、国内は、ディーゼル車の排気ガス規制による代替特需が一巡し、需要が減少いたしました。このような中、日本トレックスのグループ会社化による製品ラインナップの強化、海外事業の拡大、製品の価格改訂、中国からの資材調達等によるコストダウン、サービス体制の充実等の諸施策を実行いたしました。新規連結の日本トレックスでは、主力のトレーラー事業への一層の注力を図ることにより収益性の向上に努めました。海外につきましては、インフラ整備で高水準な建設需要が続く中国市場の需要に対応するため、昆山工場での建設関連車両（ミキサー車、コンクリートポンプ車）の生産強化を図りま

した。また、世界各国への輸出にも積極的に取り組み、海外での拡販を図りました。これらの結果、特装車事業の売上高は、国内は日本トレックスの新規連結効果により大幅に増加し、海外につきましては東南アジア、中近東、アフリカ向けの輸出や昆山工場の生産がそれぞれ好調に推移いたしました。全体では前中間期比10,988百万円（48.8%）増加して33,524百万円となりました。営業利益につきましては、日本トレックスの新規連結の効果や昆山工場の黒字化により前中間期比84百万円（6.5%）増加して1,369百万円となりました。



■ 国内トラック登録台数の推移と当社特装車販売台数



◆ 環境事業

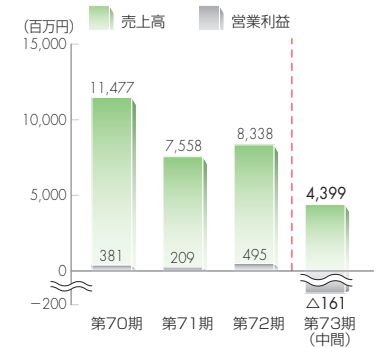
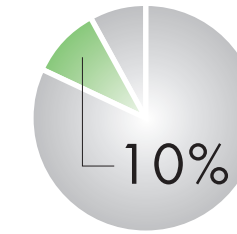
環境事業につきましては、プラント建設工事の採算性が厳しい中、安定的な収益を見込むことができるメンテナンス・運転受託に一層努め、収益の確保を図りました。新規プラント建設の受注については、各自治体の財政難や各プラントメーカーとの競争により厳しい受注環境が続く中、より採算性を重視した受注を図りました。

この結果、受注は前中間期比3,685百万円（46.1%）減少して4,305百万円となりました。売上高は、前期に受注したプラント建設工事が進捗し、メンテナンス・運転受託事業も堅調だったことから前中間期比1,619百万円（58.3%）増加して4,399百万円となりました。営業利益は、プラント建設工事で採算性が大幅に悪化したことにより、前中間期比124百万円減少して161百万円の損失となりました。

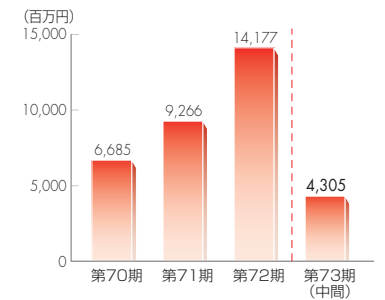


リサイクルプラザ

売上構成比



■ 受注高の推移



極東トレマッシュ破碎机

◆ 不動産賃貸等事業

不動産賃貸等事業につきましては、コインパーキングは、新規物件の開拓に努めるとともに、既存物件の採算性向上を図りました。立体駐車装置につきましても、新規受注に努めながらサービス、メンテナンスに取り組みました。

この結果、売上高は前中間期比248百万円（8.4%）増加して3,219百万円となりました。営業利益は前中間期比46百万円（13.7%）増加して384百万円となりました。

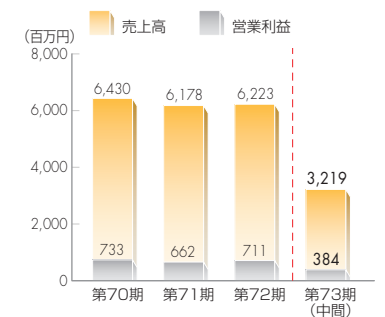
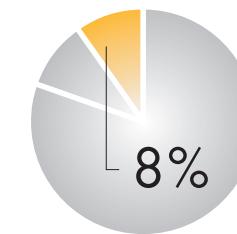


立体駐車装置



コインパーキング

売上構成比



特装車のイロハ 〈VOL.3〉

物流の効率化に大きく貢献

脱着ボデー車(フックロール)

フックロールは、脱着ボデー車と呼ばれる特装車で、キャリア(車)と荷台が分離できるアーム式脱着装置付きコンテナシステム車です。あらかじめ、空のコンテナを現場に設置し、コンテナの中身がいっぱいになると、新しいコンテナと積みかえ、運ぶことができます。フックロールの当社シェアは国内で約20%を占めています。



22tフックロール

[製品の特徴は?]

●輸送のシステム化でコストダウン

1台のキャリアと数個のコンテナを組み合わせることにより、輸送のシステム化を実現。キャリアの待ち時間を少なくし、車両の稼働率を高め、トータル的なコスト低減に貢献します。集配先の増加にも、コンテナの追加で対応できます。また、コンテナが積載物扱いになるため、搭載コンテナの制限が緩和され、利用範囲を拡大できます。

●利用範囲を広げる脱着ボデー車

積み荷の形状に合わせたコンテナにすれば、異種コンテナの積載ができるメリットを活かすことで、次のような応用範囲がさらに拡大します。

- ◆ 一般ごみ・産業廃棄物などのごみの貯留・運搬
- ◆ 鋼材・木材・板ガラスなどの資材輸送
- ◆ 穀物、飼料・塩ビパウダーなどの粉体輸送
- ◆ 水・ミルクなどの液体輸送

[どんなメリットがある?]

荷台をコンテナ化することで、物資の輸送・荷役・保管という物流形態の基本をより高度化。物流の課題である荷役の大幅な合理化・省力化に大きく貢献しています。具体的には、荷役時間の短縮や人力荷役の軽減、荷役コストの低減をもたらします。



ポイント①ツインシリンダ

ツインシリンダの採用と各アームを全面的に見直すことで、ユニットの大幅な軽量化を実現。また、軽量化によって積載量のアップにもつながりました。

ポイント②フックサポート (特許出願中)

フックサポートの採用により、コンテナの吊り上げ性能が向上。従来よりも簡単にコンテナのリフトバーを引っ掛けることが可能となった、運転手の方の負担を軽減する当社独自の機構です。(4t車のみ)

[コンテナにはどんな種類がある?]

当社では、お客様のニーズに合わせて、さまざまな形状のコンテナを用意しています。

- 天蓋付き水密仕様コンテナ…衛生的な家畜糞尿処理を実現し、省力化・効率化を図ることができます。
- スクールコンテナ…校内ごみの新しい処理方法として、コンテナ方式が安全で合理的と人気です。
- 分別コンテナ…廃棄物の中間処理場での手選別の時間と労力が解消できるほか、収集物の発生状況に合わせた回収システムを利用できます。

このほかにも、豊富なコンテナバリエーションがあります。



脱着ボデー車の主力工場

名古屋工場 (愛知県)

主に中・小型のフックロールキャリア・コンテナ、テールゲートリフターのキット設計と製造、タンクローリ、粉粒体運搬車、ダンプトラックの設計、製造と架装を行っています。



■名古屋工場概要

従業員数: 168名
(2007年9月30日現在)
操業: 1968年7月
敷地面積合計: 37,643m²
延床面積合計: 33,922m²

三木工場 (兵庫県)

主に大型フックロールキャリア・コンテナ、タンクローリ、コンクリートポンプ、ごみ収集車及び関連機械装置の設計・製造・架装を展開しています。



■三木工場概要

従業員数: 130名
(2007年9月30日現在)
操業: 1979年8月
敷地面積合計: 98,720m²
延床面積合計: 45,849m²

中間連結財務諸表

中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前中間期 2006年9月30日現在	当中間期 2007年9月30日現在	前期 2007年3月31日現在
資産の部			
流動資産	44,378	55,459	44,653
固定資産	38,000	46,696	37,656
有形固定資産	28,310	36,058	28,256
無形固定資産	504	457	489
投資その他の資産	9,186	10,180	8,910
資産合計	82,379	102,156	82,309
負債の部			
流動負債	16,017	29,296	15,902
固定負債	8,501	14,102	8,480
負債合計	24,519	43,398	24,383
純資産の部			
株主資本	56,208	57,162	56,318
資本金	11,899	11,899	11,899
資本剰余金	11,718	11,718	11,718
利益剰余金	32,910	34,347	33,619
自己株式	△320	△803	△919
評価・換算差額等	1,652	1,594	1,607
その他有価証券評価差額金	1,534	1,248	1,391
繰延ヘッジ損益	△0	—	—
為替換算調整勘定	118	346	215
純資産合計	57,860	58,757	57,925
負債純資産合計	82,379	102,156	82,309

Point.1 資産、負債及び資本の状況

当中間期の財政状態は、前期末と比較して、総資産は19,846百万円(24.1%)増加して102,156百万円となりました。

流動資産は10,806百万円(24.2%)増加して55,459百万円、固定資産は9,040百万円(24.0%)増加して46,696百万円となりました。これは、日本トレクス株式会社を新規連結したことなどが主な要因です。

負債につきましては、流動負債は13,393百万円(84.2%)、固定負債は5,622百万円(66.3%)それぞれ増加し、負債全体では、19,015百万円(78.0%)増加して43,398百万円となりました。これは、日本トレクスを新規連結したことなどが主な要因です。

純資産につきましては、株式市場の下落によるその他有価証券評価差額金の減少や自己株式の取得などによる減少がありましたものの、中間純利益の計上や自己株式の譲渡による増加があり、純資産全体で831百万円(1.4%)増加して58,757百万円となりました。

なお当中間期末現在の自己資本比率は57.5%(前期末70.4%)となりました。

Point.2 売上高、営業利益、経常利益、中間純利益

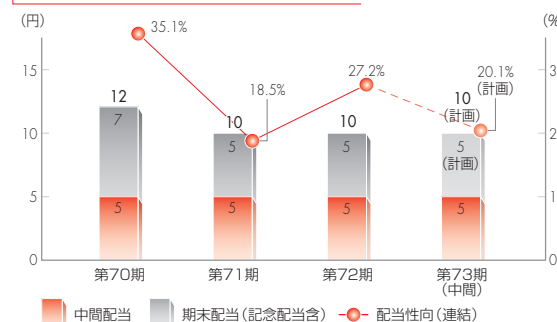
売上高は特装車事業の排気ガス規制による代替需要の一巡による国内売上の減少がありました。輸出や中国現地工場(昆山工場)の業績が順調に増加したこと、さらには新規連結の日本トレクスの売上を計上したこと等により、全体では前中間期比12,813百万円(45.7%)増加して40,870百万円となりました。

営業利益は、特装車事業、不動産賃貸等事業(立体駐車装置、コインパーキング)の増益効果がありましたが、環境事業における採算性の悪化により、前中間期比5百万円(0.3%)増の1,595百万円にとどまりました。

経常利益は、営業外収益として日本トレクスの株式取得による負ののれんの償却を計上したこと等により、前中間期比109百万円(7.6%)増加して1,551百万円となりました。

中間純利益は、税負担の軽減により前中間期比383百万円(63.4%)増加して986百万円となりました。

■ 1株あたり配当金・配当性向の推移



中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	前中間期 2006年4月1日から 2006年9月30日まで	当中間期 2007年4月1日から 2007年9月30日まで	前期 2006年4月1日から 2007年3月31日まで
売上高	28,056	40,870	58,390
売上原価	22,105	33,869	46,201
売上総利益	5,951	7,001	12,188
販売費及び一般管理費	4,361	5,406	8,698
営業利益	1,589	1,595	3,490
営業外収益	115	349	186
営業外費用	263	393	492
経常利益	1,442	1,551	3,184
特別利益	242	18	260
特別損失	62	122	83
税金等調整前中間(当期)純利益	1,622	1,446	3,360
法人税、住民税及び事業税	1,072	359	1,859
法人税等調整額	△53	100	△42
中間(当期)純利益	603	986	1,543

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	前中間期 2006年4月1日から 2006年9月30日まで	当中間期 2007年4月1日から 2007年9月30日まで	前期 2006年4月1日から 2007年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	322	△2,531	2,167
投資活動によるキャッシュ・フロー	△95	△1,408	△440
財務活動によるキャッシュ・フロー	△195	△929	△1,524
現金及び現金同等物に係る換算差額	△4	12	△2
現金及び現金同等物の増減額	27	△4,857	198
現金及び現金同等物の期首残高	12,661	12,868	12,661
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加高	7	43	7
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	12,697	8,055	12,868

中間連結株主資本等変動計算書 (2007年4月1日から2007年9月30日まで)

(単位：百万円)

	株主資本				評価・換算差額等			純資産合計	
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定		評価・換算差額等合計
2007年3月31日残高	11,899	11,718	33,619	△919	56,318	1,391	215	1,607	57,925
中間連結会計期間中の変動額									
剰余金の配当			△208		△208			—	△208
中間純利益			986		986			—	986
自己株式の取得				△535	△535			—	△535
自己株式の処分			△50	652	602			—	602
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)					—	△143	130	△13	△13
中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	727	116	844	△143	130	△13	831
2007年9月30日残高	11,899	11,718	34,347	△803	57,162	1,248	346	1,594	58,757

■ 配当について

当社グループでは、業績に見合った利益還元と安定的利益還元の双方を経営の重要政策と考え、業績の向上と財務体質の強化を図りながら、将来の事業展開、経済情勢等を勘案して、株主の皆様のご期待にお応えできるよう努めております。

2008年3月期の剰余金の配当につきましては中間、期末ともに1株あたり5円とさせていただきます。これにより、中間配当金を含めました年間配当金は、1株あたり10円となります。

会社概要

- 商号 極東開発工業株式会社
KYOKUTO KAIHATSU KOGYO CO.,LTD.
- 設立 1955年6月1日
- 資本金 11,899,867,400円
- 従業員数 850名(連結2,132名)

役員

- 代表取締役社長最高執行責任者 田中 勝志
- 代表取締役専務代表執行役員 筆谷 高明
- 取締役常務執行役員 橋本 元八
- 取締役常務執行役員 山下 詔
- 取締役執行役員 植山 友幾
- 取締役執行役員 中井 一喜
- 執行役員 小林 廣治
- 執行役員 岡本 太郎
- 執行役員 吉田 正敏
- 執行役員 熊沢 紀博
- 執行役員 安岡 嘉宏
- 執行役員 高島 義典
- 執行役員 津田 隆久
- 執行役員 池田 修己
- 執行役員 西田 正和
- 常勤監査役 中村 俊治
- 監査役 植田 浩三
- 社外監査役 天宅 陸行
- 社外監査役 道上 明

主な事業所

- 本社 〒663-8545
兵庫県西宮市甲子園口6丁目1番45号
- 東京本部 〒144-0042
東京都大田区羽田旭町1番1号
- 横浜工場 〒242-0018
神奈川県大和市深見西4丁目1番62号
- 名古屋工場 〒485-0826
愛知県小牧市大字東田中字松本1375番地
- 三木工場 〒673-0443
兵庫県三木市別所町巴2番地
- 福岡工場 〒820-0053
福岡県飯塚市大字伊岐須428番地
- 東北工場 〒039-2245
青森県八戸市北インター工業団地5丁目2番26号
- 昆山工場 中国江蘇省昆山開發区日本工業園区社鵲路288号
- 営業所 札幌市、旭川市、帯広市、青森市、盛岡市、仙台市、秋田市、郡山市、水戸市、さいたま市、高崎市、千葉市、東京都、横浜市、厚木市、大和市、新潟市、富山市、金沢市、松本市、静岡市、小牧市、名古屋市、鈴鹿市、京都市、尼崎市、西宮市、三木市、岡山市、広島市、東出雲町、高松市、松山市、熊本市、福岡市、飯塚市、鹿児島市、浦添市、中国上海市、中国広州市、他

日本トレクス株式会社

- 本社工場 〒441-0193
愛知県宝飯郡小坂井町伊奈南山新田350
- 音羽工場 〒441-0201
愛知県宝飯郡音羽町萩中山1-9
- 九州工場 〒800-0115
福岡県北九州市門司区新門司2-14-1

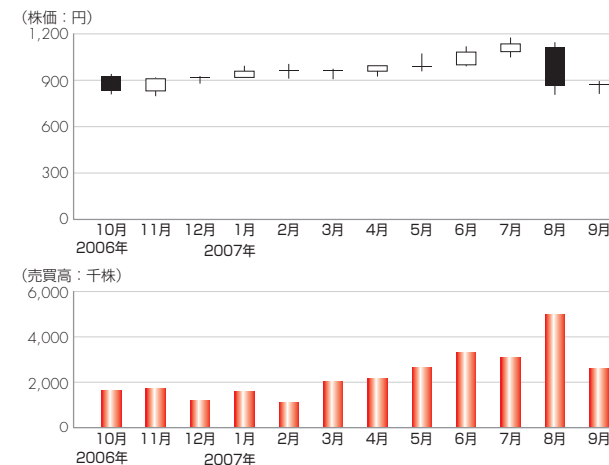
株式の状況

- 発行可能株式総数 170,950,672株
- 発行済株式総数 42,737,668株
- 株主数 4,570名
- 大株主

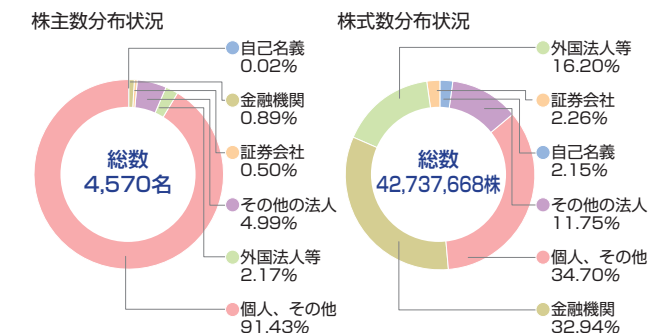
株主名	持株数(千株)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,182
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,129
株式会社三井住友銀行	1,500
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(退職給付信託みなと銀行口)	1,498
ジェービーモルガンチェースバンク385093	1,315
宮原幾男	1,170
三菱UFJ信託銀行株式会社	1,012
日本マスタートラスト信託銀行株式会社トヨタ自動車口	837
極東開発共栄会	832
メリルリンチ日本証券株式会社	780

(注) 当社は自己株式を920千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

株価・売買高の推移



株式分布状況



株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月
- 配当金受領株主確定日 剰余金の配当 期末 3月31日
中間 9月30日
- 公告方法 電子公告
当社ホームページにて掲載
(<http://www.kyokuto.com/>)
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
〒530-0004
大阪市北区堂島浜一丁目1番5号
TEL 0120-094-777 (通話料無料)
- 同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社全国本支店
野村證券株式会社全国本支店

株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話及びインターネットでも24時間承っております。

- 電話(通話料無料) 0120-244-479 (本店証券代行部)
0120-684-479 (大阪証券代行部)
- インターネットホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>
- 上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部
大阪証券取引所市場第一部